

別記様式第2号

会議の概要報告

会議の名称	佐野市子ども・子育て会議
1 開催日時	令和6年10月11日(金) 10時00分～12時00分
2 開催場所	佐野市役所大会議室D
3 委員等の人数	21人
4 出席委員等の人数	13人
5 議題	① 佐野市こども計画(案)について ② 令和7年度から令和11年度までのこども・子育て支援施策の量の見込みと確保方策について
6 会議の公開・非公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開 一部公開・非公開の理由
7 傍聴者の数	0人
8 会議資料の名称	【資料1】佐野市こども計画(案) 【資料2】令和7年度から令和11年度までのこども・子育て支援施策の量の見込みと確保方策
9 会議の概要(発言の要旨)	① 佐野市こども計画(案)について説明。 (意見) ① 男性の育児休業取得促進の話は、昨今ニュースで結構全国規模で喫緊の課題と言われているが、肌感覚で佐野市で当たり前前に男性が育児休業をとります。と言えるかっていうと、難しいと思う。多分取れてる人がいるとしても、大企業であって、中小企業だと難しいということが実情だと思う。父親として子育てをしていると、学校行事で、父親同士で顔を合わせるっていう感覚はまだ珍しかったりして、結局子供が病気になりましたっていうときには、母親が休むということがまだ当たり前前の感覚だと思う。大きな意味での意識の改革、父親が働いてる立場として、当たり前前に子供が風邪なんて休んでいいですか。ということに対して「当たり前」の感覚が出来上がってきて欲しい。佐野市として、そこに

取り組むんだという大きな声をもらえると現役の子育てする若者たちが、言っているものかなっていう風に思えるようになっていくと思う。

- ② 里親については、置いてきぼりになってしまう可能性があると思っている。困難な家庭を支えるという里親制度について、もう少しみんなで考えていきたい。
- ③ アンケート調査をまとめてもらっているが、今後、大人として、様々なことに取り組んで、改善していけば、もっと良い街になっていくと思う。
- ④ ジェンダーバイアスの話については、子ども子育て会議と企業体で話ができるような仕組みが欲しい。また、こどもの声を聞くというのは、本当に大事なと思う。アンケートに答えていないの声を聴くことも大切で、年齢とか発達に応じた対応もしていく必要があると思う。ただ、こういうふうにしてほしい、これが欲しいという意見を聴くことも良いが、自分はこういうことがしたい、街のためにこんなことをしていきたいという声を聴くことも重要だと思う。
- ⑤ 母子の健康は非常に大切だと思っている、保育と医療の連携について、ぜひ記載してほしい。医療の視点についてはどんどん進んできている。現場の先生たちももっと知った方がいいと思っている、アドバイスというか、情報提供できるような仕組みが欲しい。
- ⑥ 日々の親子関係がすごく大切だと思う。民間で保護者ネットワークを繋ぐ団体があって、特に就学前で情報が分断されてしまうので、子育て支援として、保護者同士のネットワーク、繋がりも大切にしていく必要がある。
- ⑦ 産後ケアについて、よく聞かれるが、産前の少し元気な時に、どこに助けを求められることができるといった関わりを持っておくと、産後鬱状態になってしまった時に、SOSを出しやすいのではないかなと思う。安全の確保という面からも良いのではないかなと思う。

- ⑧ 放課後の過ごし方について、自宅、学童はもちろん、今の子どもたちは、習い事や塾、スポーツクラブを非常に高い割合で利用している。学校に来ていなくても塾には来ているのであれば、そこが唯一繋がってる場所のようになっていることもあると思う。意外と行政や学校と、特に学習塾は関わりづらい。明らかに問題を抱えていて学校には行けていないけど、学校に電話を入れていいんだらうかと、塾の先生は悩んでいると思う。学校側としては、多分情報を民間企業に出しにくいと思うので、行政側からアプローチをしてもらえれば、相談できるようになるのではないかと感じています。
- ⑨ 母親の健康というものももちろん大切であるが、その中でも、特に必要になるのは、家庭としての支援であって、母親がなかなか育児が難しいといった場合には、家庭全体を支援していくような取組を入れて欲しい。
- ⑩ 「切れ目のない」というのはどういうイメージでいるのか。先ほどの塾との繋がりの話や年齢の話もそうであるし、先ほどの話では、医療と保育は、今の目線では切れ目があるように感じているようである。仕事を休みやすくなる風土づくりに向けて商工会議所などとも連携をとらなくてはならないと感じている。なかなかまだ事例はないだろうが、様々な観点から「切れ目のない」を目指していく必要がある。
- ⑪ これから高校生から意見を聞いていくのであれば、結婚についてどう考えているか、子供を持つことをどう考えているか。そういう若い人たちの気持ちがわかるようなアンケートの質問を教えていただくと、よいのではないかと思います。
- ⑫ 認定子ども園幼稚園保育園と小学校の連携を推進していくことはもちろんそうなのですが、一方方向じゃなくて、小学校の先生に保育現場を見てもらうなど、双方向の考え方で書いていただきたい。

	<p>(回答)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いただいた意見を踏まえ、改めて計画の修正をしていく。 ・高校生アンケートについては、提案いただいた内容で実施を予定している。 ・里親家庭への現状の支援体制、支援の現状について説明。 <p>② 令和7年度から令和11年度までのこども・子育て支援施策の量の見込みと確保方策について、ニーズ結果を踏まえた数値の算定方法について説明。</p> <p>(意見)</p> <p>① 少子化が進んでいる中では、この中に出てくる「誰でも通園制度」を誰でも入園制度にできないものか提案したい。</p> <p>② 佐野市には、子育て支援施設が9施設あるが、もっと増やしていった方が良いのではないかと考えている。</p> <p>③ 児童館はこの調査や数値を算定する対象ではないと思うが、もう少し増えてもよいのではないかと思う。</p> <p>④ こどもが入院している時に、様々なサポートについて誰に聞いたら良いかわからなく、その時は看護師さんが色々教えてくれたが、行政側でより分かりやすく見える化してもらえるとありがたい。</p>
10 その他	<p>改めて質問や意見がある場合には、18日までにメール等で連絡を依頼。</p>